

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「やしゃむしゃ やしゃむしゃ むしゃのむしゃのやしゃ、
やしゃむしゃむしゃの やしゃのむしゃむしゃ」

「やしゃむしゃ やしゃむしゃ むしゃのむしゃ
のやしゃ、やしゃむしゃむしゃの やしゃのむしゃ
むしゃ」

「ややや！なんだね、コレ！」といきなり、お手（目）を煩わせてすみません。おそらくこれを読まれた方は、目を凝らして、あるいは何度か行きつ戻りつして読まれたことと思いますが、今回は頭というか目の体操として出来れば声にだして読んでお付き合いいただければ幸いです。

これは、糸がむだかった（絡まったという意味の新潟弁）際に唱えるまじないです。亡くなった裁縫の得意な祖母が、「糸がごしゃらごしゃらとむだかった」時にぼそぼそ唱えていたように記憶しています。

さて、この「ごしゃらごしゃら」も「むだかる」もれっきとした新潟の言葉。「ごしゃらごしゃら」は、やでもか共通語に表すと物事がごちゃごちゃとした乱雑な状態、あるいはごてごてと過剰に飾り立てるさまの表現ですが、やはり、「ごしゃらごしゃら」の方が「ごちゃごちゃ」というよりも一層その大変な状態を表現したように思えてきます。

「むだかる」は、「絡まる」の意味。「うんだかる」（この場合「う」を小さく発音するのがポイント）と言った方がより新潟弁らしく聞こえてくるから、あら、不思議。こちらも、絡まるよりも、ひときわ糸か何かがつれておおごとな状態が伝わってくるというものです。この「むだかる」は、石川、福井方面でも使われている方言です。能登の地方では、「むだかるが共通語だと思っていた」という位ポピュラーな表現です。県内では、水無月の風物詩

でもある、三条の「凧揚げの用語」に「糸がむだかる」と出ていて、どうやら新潟から北陸地方で使われているようです。

縫い糸も凧の糸も、むだかった糸を解くのは至難の業、ほどこうとしても、あせればあせるだけ余計絡まり、ねじれ、よじれてむだかり、事態も気分もこんがらがり、なおさらイライラするというものです。そんなとき、昔の人は、「やしゃむしゃ やしゃむしゃ むしゃのむしゃのやしゃ、やしゃむしゃむしゃの やしゃのむしゃむしゃ」と唱え、（しかも3度も！です）あせらず根気よくむだかった難問に取り組んだのかも知れません。急いては事を仕損じるといいますが、この「やしゃむしゃ……」を3度唱えているうちに、それこそむしゃくしゃした気分や心も落ち着いてくるといったところでしょうか。

「やしゃむしゃ」が、どの地域で言われていたのかは不明ですが、「やしゃむしゃ」のゆとりこそ慌ただしい日々にかかしていききたいものだと思います。

